

## (1) 生椿地域（生椿の自然を守る会）活動内容

### 1 地域等の概略



「生椿（はえつばき）は桃源郷のようなところ」生椿を訪ねたことのある人たちは、口々にそう言う。小佐渡東部の山中に位置する自然豊かな場所である。

生椿は、1673年頃に島内の他の集落の次男、三男が開拓し、住み着いたと言われている。大正時代には9世帯が暮らしていたが、昭和初期に子どもの教育のために下山する者が増え、昭和36年には高野家を残すところとなり、平成元年には、廃村となった。

しかし、絶滅寸前のトキが地域住民と共生しながら生息していた土地であり、現在でも「トキの聖地」として親しまれている。かつて、生椿住民たちは、食糧難の中でもトキのために農薬などを使わない米づくりをしていた。他にも牛を借りて増やし利益を得る仕組み、羊毛と服の交換など、何十年も前のことだが、持続可能な暮らしの仕組みづくりがなされていた特色のある土地である。

廃村となった今でも、トキの餌場などとして歴史のある美しい風景を残そうと、「生椿の自然を守る会」のメンバーを中心に棚田の稲作や地域の環境整備などに取り組んでいる。

### 2 現状と課題

廃村になった後も2013年頃より4名の耕作者が生椿の8割程度の田んぼを耕作してきたが、現在では、高齢化により2名の耕作者が中心となって耕作を行っており、耕作地（トキの餌場）の維持管理が難しくなっている。

そのため、後継者を育てるほか、関係人口を増やして、棚田を共に管理してくれる人材を広げていく必要がある。

昨年から、「生椿結の会」という20代～40代のメンバーが関わるボランティア組織が生まれ、地域での草刈りや旧生椿住人にお話を聞いて昔の暮らしを記録する「聞き書き」の活動を行なっている。

### 3 地域の将来像

島内外において“トキの聖地”生椿地域を「みんなで守っていこう」という機運を盛り上げていきたいと考えている。そのために、生椿地域に興味があったり、たまに訪れたり、生椿を守ろうと関わってくれる「関係人口」を増やす試みを行いたい。

現在、生椿には電気もガスも通っていない。しかし、だからこそ自然に触れなが

ら、自然や環境を守ることの大切さを理解するきっかけをつくる場所になり得ると考えている。「トキの聖地」であるのみならず、自然エネルギーの活用や自然に優しい農業への取り組み（パーマカルチャー的な持続可能な生椿づくりの実践）など「環境の聖地」としていくことで、SDGs 的な視点での環境学習やエコツアー（日帰り型、宿泊型）の受け入れをしていきたい。

#### 4 協力隊に求める活動内容

島外者の視点から、埋もれている有効な資源を活用し、関係人口増加のために島外とも繋がりながら、以下の活動に取り組んでもらいたい。

- ① 生椿の棚田での米づくり、ビオトープの保全、草刈りなどトキの餌場管理
- ② 持続可能性に配慮した（パーマカルチャー）ボランティア参加者の滞在環境整備
- ③ 生椿の魅力を活かした体験学習やエコツアー受け入れのための仕組みづくり
- ④ 島内外に生椿ファンを増やし、関係人口を増やしていくための情報発信やイベントなどの実施
- ⑤ 山岳信仰にまつわる場所の整備、保存、歴史の伝承

#### 5 主な年間活動計画

※活動開始時期：令和5年4月1日以降

|     |  |
|-----|--|
| 1年目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生椿の棚田での米づくり、ビオトープの保全、草刈りなどトキの餌場管理</li> <li>・ トキに関する学習体験、エコツアーの仕組みづくり、受け入れ</li> <li>・ 島内外における関係人口増加のための取り組みの調査、視察</li> <li>・ 持続可能なボランティア参加者の滞在環境の整備</li> <li>・ 山岳信仰にまつわる場所の整備、保存及び歴史の調査</li> <li>・ 冬場のエコツアーの試行</li> <li>・ 生椿でかつて行われていた焼畑農業に関する調査</li> </ul>                                      |
| 2年目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生椿の棚田での米づくり、ビオトープの保全、草刈りなどトキの餌場管理</li> <li>・ トキに関する学習体験、エコツアーの仕組みづくり、受け入れ</li> <li>・ 島内外における関係人口増加のための取り組みの検討、実践</li> <li>・ 持続可能なボランティア参加者の滞在環境の整備</li> <li>・ 山岳信仰にまつわる場所の整備、保存、歴史の伝承</li> <li>・ 焼畑農業の実践の検討、試行</li> <li>・ 生椿の保全活動が継続できる、関係人口を活かした体制作りや資金確保の検討</li> <li>・ 冬場のエコツアーの実施</li> </ul> |

|     |   |
|-----|---|
| 3年目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生椿の棚田での米づくり、ビオトープの保全、草刈りなどトキの餌場管理</li> <li>・ トキに関する学習体験、エコツアーの仕組みづくり、受け入れ</li> <li>・ 島内外における関係人口増加のための取り組みの検討、実践</li> <li>・ 持続可能なボランティア参加者の滞在環境の整備</li> <li>・ 山岳信仰にまつわる場所の整備、保存、歴史の伝承</li> <li>・ 焼畑農業の実践の検討、試行</li> <li>・ 生椿の保全活動が継続できる、関係人口を活かした体制作りや資金確保の検討</li> </ul> |
|-----|---|

## 6 地域の連携体制

活動がスムーズに行えるようにトキにまつわる組織が運営する「トキの水辺づくり協議会」や佐渡市の観光交流機構などとも連携しながら、生椿集落の魅力を生かした取り組みを推進していく。

## 7 退任後の展望

活動期間中から、生椿での活動が継続できるような仕組みづくりを検討してもらい（地域に関わっている若手メンバー「生椿結の会」などでサポートする）、任期終了後の収入源となるように進めていきたい。

## 8 その他（生活環境など）

- ① 住居：潟上集落内
- ② ガソリンスタンド：(株)伊藤商会新穂給油所／住居から車で約2分
- ③ 雑貨店：ふれあいショップフジサワ／住居から車で約1分
- ④ コンビニエンスストア：ローソン佐渡原黒店／住居から車で約7分
- ⑤ ホームセンター・大型スーパー：ムサシ佐和田店ほか／住居から車で約15分
- ⑥ 郵便局：新穂郵便局／住居から車で約4分
- ⑦ 総合病院：佐渡総合病院／住居から車で約11分
- ⑧ 地域の拠点施設：生椿の高野毅さん所有の小屋／住居から車で約30分
- ⑨ 保育園：新穂トキっ子保育園／住居から車で約4分
- ⑩ 小学校：行谷小学校／住居から車で約2分
- ⑪ 中学校：新穂中学校／住居から車で約3分
- ⑫ 高校：佐渡中等教育学校／住居から車で約12分
- ⑬ 市役所：新穂行政サービスセンター／住居から車で約4分
- ⑭ インターネット環境：ケーブルテレビ回線

\* 上記は最寄りの施設等を例示したものです。

## 【住居候補のs空き家】



## 【代表 高野毅からのメッセージ】



「(活動をしたいとやって来てくれる人が) 自分なりに生椿という土地の価値を感じて、自分がやりたいと思うことに取り組んでもらえたら嬉しいです。」

もちろん、生椿という土地を守っていくためには、棚田の管理や草刈りなどの整備の仕事もありますが、無理なく可能な範囲で継続して欲しいという思いです。そうした活動を

行いながら、主には、自分自身が生椿という土地と出会い、土地への愛情を持って、取り組みたい！と心から思うことに取り組んでもらえたら嬉しいです。ひとまず、生椿に来て、触れてもらいたいので、ぜひ一度、生椿を訪ねに来てみてください。ご案内します。(※冬季は雪で行けないことがあります。事前にご連絡ください。)

高野さんは、もし竈門が作りたい人が居れば、「一緒に小屋を建てて、簡単な竈門を作ってもええし。」というようなことも話していました。生椿の自然や暮らしを、楽しみながら実践したいという意欲のある方に隊員になっていただけると嬉しいです。

## 【生樫での活動の様子】



毎年島内外からたくさん子どもたちがビオトープづくり体験にやってきます。島内の小中学校の環境学習の場所としても親しまれています。



20代～30代の若者を中心にボランティアで草刈りなどの環境整備活動を始めました。終了後はかまどで炊いたごはんとスパイスカレーを参加者みんなで食べるなど、いつも楽しくやっています。



最近、「生樫結の会」主催で、生樫の旧住人に昔の暮らしの話聞く「生樫むかしの暮らし聞き書き講座」（スタッフ及び参加者16名ほど）が始まりました。春頃には聞き書き集が完成する予定です。かつて、使われていた藁細工、小さなサウナのようなもの「オロケ風呂」など、再現するプロジェクトなどを行なっても楽しそうです。



かつてトキが舞っていたころの生樫。  
食料が不足している時代でも、トキのための餌場をつくっていたそう。